



浄者神奈川

大本山光明寺法主 林昭彦 台下 御染筆

矜持

未来創造

第二十一期浄土宗神奈川教区青年会
第十九代会長 大谷 正元



この度、第二十一期浄土宗神奈川教区青年会 第十九代会長を務めます、港北組専念寺大谷正元と申します。法然上人のみ教えを礎とし、諸先輩、皆々様が大切に育み繋いで来られた伝統ある青年会を確り更なる高みへと導き、次世代へと繋いで参ります。昨年は、法然上人八〇〇年大遠忌の良縁の年でありました。本年は、八〇一年。改めて、身を引き締め、新しい第一歩を踏み出す好機と捉え、運営テーマに「矜持」未来創造を掲げて精一杯邁進して参ります。何卒、宜しくお願ひ申し上げます。

『未来に何を託すのか？』

混沌とした社会において、念仏の必要性、必然性の確立。念仏弘通を更に我々は推進していかねばなりません。責任世代の一青年僧侶として、大きな夢と希望、志を持つ事が必要不可欠。そして、今だからこそ、今行動なくしては、理想とする未来に

は成り得ない。その一言が、一瞬の行動が未来を変える。その事を自覚し、自分自身と確り向き合う事から、意識を高め、自信と誇り「矜持」を持って、確固たる未来を創造して参ります。

『調和』同じ時を共に過ごす事への誇り。

よく揶揄される「希薄化された世」にならって我々も縦横の繋がりが薄らいでいる様に思われます。裏を返せば、個のスキルが上がっているとも取れるわけですが、個の集合体が組織なわけですので、本来は組織も同様にレベルアップをしなければならぬと考えています。必要とされる組織。会員、一人ひとりが組織を思い、調和を保ってこそ、組織力を高め、お念仏を通して不可能を可能に出来る組織を目指して参ります。

『継承』思いの具現化

この神奈川教区浄土宗青年会は、来年初より「自行・化他・和合」をもってその時々、時代背景は異なる、懸命になつて取り組み活動し、大切に育んでこられたからこそ組織が存続してきたものと敬意を払います。会の創立四十周年を迎える今だからこそ、過去の事業・運動の数々を検証し、組織の立ち位置（存在意義・理由）、

向かうべき道（目的）の確立を目指して参ります。

青年僧侶だからこそ成し得る事がまだまだ沢山あるものと思っております。それらを、丁寧に創出し、最初は小さな蕾かもしれませんが、やがて、大輪の花を咲かせるような、種を沢山植え付けます。継承の一つに、一般檀信徒を対象とした「大別時念仏会」を大本山光明寺に於いて開催して参りました。今期は、この「別時念仏会」を取って各組、各寺院単位で開催する事を推進して参ります。「時には別時念仏を修すべし」とあるように、とても大切な事と認識しております。地域に根ざした、念仏実践道場として、また、地域コミュニティの役割を担っていただきたいと考えるからです。開催するノウハウは十分当会で蓄えております。それらをホームページ上で公開、或いは、相談窓口を設けて対応して参ります。

法然上人のみ教えは、八〇〇年の時を経た今も、輝き続けている。我々、青年会も輝かしい未来に向けて、矜持を胸に、何事にも臆する事なく、青年僧侶として、義理・人情・やせ我慢をもつて共に精進して参りましょう。

合掌

執行部紹介

副会長	松蔭 英宣 小田原組 善光寺
副会長	伊藤 知道 港南組 専念寺
監事	福田 雅宏 中郡組 南蓮寺
監事	加藤 光成 京浜組 大徳寺
関プロ副理事長（関プロ出向）	當間 伸行 鎌倉組 延命寺
相談役	石川 和弘 港北組 大善寺
四十周年特別委員長	小山 英紹 中郡組 大念寺
會計	松江 弘信 三浦組 満宗寺
會計	三浦 康志 高座組 西光寺
書記	安田 雄心 港北組 心行寺
関プロ大会実行委員長	岩崎 正伸 小田原組 光明寺
事務局長	水谷 竜也 港北組 龍安寺
事務局員	柴田 文彦 港北組 蓮勝寺
事務局員	大谷 慈通 高座組 信法寺
事務局員	石井 康順 鎌倉組 小坪寺
事務局員	吉岡 了真 京浜組 東明寺
事務局員	後藤 佳孝 港南組 光長寺
事務局員	一真成 中郡組 易往寺
事務局員	戸松 良明 小田原 大蓮寺
編集委員長	佐々木元洋 中郡組 大宝寺

伝弘のみ心、いまに

大本山光明寺法主 宮林昭彦 台下



この度、浄土宗神奈川教区青年会におかれては、第二十一期の新年度を迎えられ人心一新してスタートされましたこと期待をこめて慶賀に存じます。

昨年度は、宗祖法然上人八百年大御忌の正当をお迎えして一宗を挙げて千載一遇の盛儀が執り行われ、その間、東日本大震災に遭遇し、思いも新たに、宗祖上人の時機相応のみ教えを体して、報恩謝徳の至心を捧げました。愈々八百一年の一步を踏み出して、三祖良忠上人の「選擇伝弘」のみ心を思い、未来志向で前進することを期するものであります。

「伝弘」について三祖上人は、「伝とは先師から伝えられ、弘とは遺弟のちに弘む」と言われました。まさに宗祖の選択本願念佛を正しく

今に伝え弘むことの大切さを教えられています。

八百年の大御忌には大師号として「法爾大師」が加諡されました。法爾とは、法そのままであり、法とは人為を加えず自然の摂理であり、仏法そのものであります。自然法爾のことば通り阿弥陀仏の本願は、自然そのものであります。

第二十一期の浄青の活動は、「矜持」——未来創造——ということが方針と承りました。

若い青年諸君が自分の能力を信じて、誇りをもって、只今から未来に向かつて力強く歩む決意が示されたものであり、大いに共感します。恩師である椎尾弁匠先生が「時は今、処脚もと、そのことに打ち込む命、永遠（とわ）のみ命」といわれて、往生の思想は、いまに不惜身命の心地で、一日一日往生の生活を実践することが永遠の浄土につながる道であると教えられました。好漢各位に大いなる期待を込めて一言申し上げます。

無常の中に生きながら

神奈川教区教区長 夏見邦夫 上人



浄土宗神奈川教区青年会第十九代会長に大谷正元上人が就任され、また新役員によつてのスタートをお祝い申し上げます。新会長に於かれましては多方面での豊かな経験を生かし今後の活躍を期待しております。

神浄青会員の皆様には、昨年は八百年大遠忌に伴う各行事も含め教区事業に際し、全面的なご協力を頂きありがとうございました。先ず昨年一月には厳寒期の中、宗祖法然上人八百年大遠忌念仏行脚が、大本山増上寺より総本山知恩院迄の全十教区六百kmの中、箱根の難所を受け持ちながらも、無事成満出来た事、また人形劇ミラクル・キッズや、青少年向けの一宗事業等無事教区の任務を果たせた事は、浄青の若い力の賜物と感謝致します。

現在の活動は、会員相互の交流を深める活動に始まり、被災地へのボランティア活動や檀信徒との大別時念仏、

教区のテレフォン法話など多岐に渡り活躍され、また法式や雅楽、詠唱などの研鑽にも努力され、布教活動に尽力されている事に敬意を表します。

「私が無駄に過ごした一日は、あの人が生きたかった一日である」という箴言。改めて噛みしめてみたい言葉です。

この四月二十六日、教務所は大事な人を失いました。教区にとつても、一宗にとつても大きな損失です。現職の教区参事である京浜組教安寺住職野呂幸忍上人の遷化です。生きていたかっただろうし、一日でも生きていて欲しかった人です。勿論この事は教区の出家在家全ての先立った人々に言える言葉です。

人は幸せの尺度を物やお金が第一と考える風潮がありますが、これは今も昔も変わらぬと思います。野呂上人は常に心で相手に接し、絆を大切にされ、自己中心的な考えの全くない人でした。それ故、家族には勿論、誰からも好かれ尊敬されていました。信念と言う名の強靱な根を持った有徳の僧でした。

「迷僧は迷僧にて冥僧たれ」の教えを常に根底に刻みながら限りある人生を過ごしたいと思えます。浄青の方々にも更なる活躍を期待しています。

浄土宗神奈川教区青年会
第二十期会長 當間 伸行



おかげをもちまして、神浄青第二十期の活動を円成することができました。法然上人八百年大遠忌という佳辰に會長をつとめられた幸せを感じ、この機会を与えていただけたことにあらためて感謝しております。

第二十期は、活動テーマを「精進不断」受け継ぎ、伝えてゆくために」とし、浄青活動を精進のための行と位置づけ、会員の資質向上を第一の目標といたしました。

活動内容は、「精進道場」と名づけた研修会を、二年間で七回、宗乗・法式等を内容に開催し、第一線で活躍の講師の皆様から、毎回熱意あ



ふれるご講義を頂戴しました。

平成二十三年一月末には、神奈川教区の指揮のもと、宗の大遠

忌記念事業「念仏行脚」をサポートしました。各組浄青による入念なルートの下調べと人員確保の結果、六十九名の会員のご協力により、無事静岡教区に引継ぐことができました。

同年二月七日には、大遠忌記念事業「八百礼拝」を行いました。会員・OBあわせ七十八名の参加と、二年間で最多でした。各組が百礼ごとに式衆と礼拝師を担当したこと、自分たちの行事であるとの思いを強く持てたからではないでしょうか。

任期半ばに発生した東日本大震災に対しては、残念ながら迅速な対応ができませんでしたが、神奈川県内においても震災直後の計画停電や物資の不足などの事情があったとはいえ、その中でできることを考える努力が足りなかったかもしれません。被災地支援は、義捐金托鉢のほか、全国浄青が呼びかけた「被災寺院復興支援活動」に参加し、神浄青単位では合計三回で延べ二十六名の会員が現地入りして津



二年間の活動をふりかえって

波被災寺院で瓦礫撤去などの作業に従事しましたが、秋以降は新たな動きができませんでした。大規模災害が起きてから対応を協議するのではなく、平時から備えておくことが必要とあらためて感じています。

同年十一月二十六日には、「大別時念仏会」を、会員・檀信徒合計百三十六名の参加により、パネルシアター、法話、別時念仏を内容に開催しました。檀信徒の参加が一部の寺院に偏ってしまい、各会員のこの行事に対する思いの差を感じました。しかしながら、参加してくださった檀信徒には確実にお念仏のみ教えをお伝えすることができたと思っております。実行委員会では、吉田健一委員長のもと自主性を重視した企画運営を行い、委員をつとめた会員もこれを通じて何かを得たと思えます。

もうひとつの記念事業・研修旅行「御遺跡参拝」は、法然上人が流罪を赦されて以降のご足跡をたどり、報恩講寺、勝尾寺、粟生光明寺、二尊院



など七ヶ寺を参拝しました。参拝する機会が少ない法然上人ゆかりの寺院をめぐり、見聞と親睦を深めることができました。

多くの事業を予定していたうえ震災が起きたことで、多忙かつ多難な二年間となりましたが、事業をほぼ全てやりとげることができたのは、教区内諸大徳のご支援、各組理事並びに会員の皆様のご協力、そして何より、執行部役員の皆さんのご盡力の賜物と心から感謝しております。

結びにあたり、大谷会長のもと新たな体制でスタートしました神浄青へ一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。合掌



特別委員長 小山英紹



平成二十五年は、神浄青創立四十周年目を迎える年です。今期神浄青第二十一期に四十周年を迎えるにあたり、特別委員長のお役を仰せ付かりました。私は来年神浄青の卒業を迎えます。この度の委員長は卒業の身分ではない、正会員の中から選出して頂きたくお願を致しましたが、第二十一期十九代会長大谷上人並びに執行部役員の皆様からの懇願により、お役をお受け致しました。卒業の身分で有りませんが、浄青会員の皆様と共に四十周年事業に取組んで参りたく思います。

今後の事業の取組と致しましては、神浄青四十年間の歩み検証し、今、神奈川教区浄土宗青年会として何が必要で有るかを考え会員全員で多くの意見を出して頂き、「一人でも多くの会員が参加のできる事業」、「後の神浄青の活動に繋がる事業」、「新たな道が開ける事業」などを考え、て行ければと思っております。

神浄青創立四十周年事業

その中でも「新たな道」(未来)は浄土宗青年会だからこそ出来る事だと思えます。例えば、神浄青でも神奈川教区教務所よりお受けしているテレフォン法話。三十年前まで有るならば実に有意義な発信方法であったわけですが、今現在に至ってはインターネットなどによる様々な発信方法が出来る環境に至っております。

そういった中で、より有意義な発信方法を模索し、より多くの人にお念仏のみ教えをお伝え出来るそのような何かを神浄青の皆で形に出来ればと思っております。

新たな発信こそ我々浄土宗青年会が出来る事ではないでしょうか。浄土宗宗祖法然上人が示し下さったお念仏の教えは、本当に有難く素晴らしい教えである事を、多くの人に間違いなく伝える事は自分たちの使命でもあります。今年から来年に向けて神浄青会員全員で自業・化他・和合を念頭に置き未来に繋がる四十周年事業を取り組んで行きたいと思っておりますのでどうぞ皆様のご指導ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

合掌

浄土宗神奈川教区青年会 平成24年度事業計画

月	日	事業内容	場所
4	2(金)	※三大本山関プロ浄青別時念仏会(16名)	大本山増上寺
4	12(木)	神浄青第21期各組代表者会議	大本山光明寺
4	20(金)	第1回理事会 定期総会・入会式(4名)・卒業式(9名)	大本山光明寺
6	5(火)	第2回理事会	大本山光明寺
6	22(金)	新旧役員歓送迎会	華正楼
6	中旬	機関紙「浄青神奈川」第39号発行	浄土宗神奈川教区青年会
6	28(木)	※第39回関プロ浄青総会 並びに 研修会	三井ガーデンホテル千葉
6	29(金)	大本山光明寺開山忌前清掃奉仕 第3回理事会	大本山光明寺
7	25(水)~27(金)	※関東教化センター第64回夏期僧堂手伝い	大本山光明寺
8	30(木)	※全浄第8回全国大会	北海道教区
9	12(水)	第4回理事会	大本山光明寺
10	4(木)	第5回理事会・大本山光明寺十夜前清掃奉仕	大本山光明寺
10	14(日)	十夜托鉢	大本山光明寺
11	1(木)	※関プロスポーツ交流大会	長野教区
11	13(火)	※関プロ別時念仏会 担当:神奈川教区	大本山光明寺
11	未定	※全浄大別時念佛会	宮城教区
11	未定	神奈川教区长杯ソフトボール大会 担当:中郡組	
12	5(水)	第6回理事会・忘年会	
1	24(火)	第7回理事会・御忌別時念仏会	大本山光明寺
2	未定	※全浄第38回総合研修会	総本山知恩院
3	28(水)	第8回理事会	大本山光明寺

※神浄青以外の事業です。

神浄青創立40周年特別委員会は随時開催予定

常任理事 理事紹介

常任理事		理事	
森本 有史	京浜組	専修 大志	京浜組
渡辺 剛志	港北組	森 泰道	港北組
石川 基樹	港南組	大谷 宗通	港南組
上田 真彦	高座組	香川 陽祐	高座組
関谷 泰然	鎌倉組	稲見 公宏	鎌倉組
山本 宗純	三浦組	小松崎 成淳	三浦組
酒井 仁成	中郡組	竹石 光仁	中郡組
小俣 慶樹	西念寺	大場 得法	小田原組
			正蔵寺
			寶秀寺
			蔵田寺
			増全寺
			覚栄寺
			東漸寺
			桂林寺
			円宗寺

卒業生代表
高座組 宗仲寺 平野誠司



「ここ数年のことですが、楽しかったなあ」まずは率直な感想です。

浄青に入会したのはまだ学生だった頃。平成二年に全浄中央研修会（現在の全国大会）がホリデイ・イン横浜（現ロイズホテル）で開催され、その際にお手伝いをさせていただいたのが、神浄青での最初の活動でありました。その後幼稚園で送迎バスを運転する毎日となってからは、浄青の活動に全くと言って良いほど参加出来なくなっていました。何回かソフトボール大会に参加した記憶はありますがその程度。そうなる人って心が向かなくなるもの。むしろ参加する事への恐怖心すら出てくる始末。気持ちが悪く感じました。

八年前、当時の組会長が神浄青副会長になられた為、代わりに私が常任理事に就くことになり、これを機に再び浄青の活動に顔を出さざるを得ない状況になりました。言え、そこから私の浄土宗青年会の一員としてのスタートだったように思います。その二年後に高座組浄青会長に就き、同時に第十八期神浄青副会長を務

卒業にあたり

めさせていただき、引き続き第十七代神浄青会長、そして最後に第二十期関東ブロック浄青理事を務め卒業を迎えました。

もっと早く活動に参加出来れば良かったという気持ちもありませんが、限られた中で本当に多くのことを学ばせていただきました。その中でも、一番は仲間の大切さであり、一人では出来ないことも、仲間と共に上げて創りあげていく大変さや、楽しさを味わえたことが何より私の財産となりました。先輩方が卒業される時に「浄青のうちだよ・・・」と言われていました。今となってはその言葉の意味が分かります。

会員の中には、以前の私の様に、様々な理由で浄青の事業に参加出来ない方が少なくないと思います。そんな方々も、まずは組浄青からでも良いので、浄青に参加するきっかけを作っていただきたいと思っています。是非心を向けることから始めて下さい。きっとすばらしい仲間と出会え、すばらしい経験が出来るはずだと思います。

最後になりましたが、今までお世話になった皆さんに心から感謝し、今後益々浄土宗神奈川教区青年会の発展をお祈り申し上げます。

本当にありがとうございます。

合掌

卒業会員



小田原組 安養寺 小杉 孝祐



高座組 天徳寺 藤本 剛史



高座組 善然寺 戸田 順教



高座組 念宗寺 村瀬 良喜



港北組 宗忠寺 夏見 成貴



三浦組 円乗院 村山 英淳



鎌倉組 専福寺 成田 善俊



鎌倉組 真福寺 安井 昭道

新入会員紹介



中郡組 法界寺 神崎 隆雄
昭和 59 年 6 月 15 日



中郡組 福蔵院 伊藤 圭祐
昭和 54 年 4 月 2 日



高座組 佛導寺 伊藤 泰毅
平成元年 11 月 1 日



港南組 浄性院 高島 隆文
昭和 55 年 10 月 18 日

計 報

野呂幸忍上人（京浜組教安寺第二十七世）
平成二十四年四月二十六日ご遷下 世寿六十二歳
開蓮社法譽蔵阿一乘幸忍大和尚

浄青の主な職歴
神浄青第七代会長
関プロ浄青第十代理事長
全浄青常務理事

上人のご業績に心から敬意を表すとともに神浄青へ賜りましたご厚情に感謝し謹んでお十念申し上げます。

第40回関東ブロック浄土宗青年会総会並びに研修会



研修会テーマ

令心眼見

— 今だから気付くこと —

平成25年6月17日（月）

会場：ローズホテル横浜

第四十回
関東ブロック
浄土宗青年会
総会並びに研修会

実行委員長 岩崎正伸



この度、第四十回関東ブロック浄土宗青年会総会並びに研修会の実行委員長を務めさせて頂きます小田原組光明寺 岩崎正伸でございます。

第四十回という節目にあたる大会を神奈川教区担当で迎えるにあたり、今大会のテーマを『令心眼見 ～今だから気付くこと～』（心の眼を見開いて見よ）と致しました。

法然上人は比叡山西塔に入り、二十五年間にも及ぶ修行を重ねました。丁度この期間、今を生きる我々青年僧侶も法然上人に肖り「浄土宗青年会」として、自行・化他・和合の実践を重ねております。報恩蔵に於いて五千巻に及ぶ一切経を五度も通読され、善導大師の観経疏「一心専念の文」に依り心眼を開かれ浄土宗開宗

に至ります。この観経疏の元となる観無量寿経も又、法然上人は何度も読み返した筈です。私達が法要の時に最もよく読誦する「第九真身観文」の中に光遍照く撰益文があります。お念仏を申す衆生を一人残らず極楽浄土に往生させて下さる。浄土宗の抛り所となる

大変重要な偈文です。この後「光明・相好および化仏、具に説くべからず。但、当に憶想して、心眼をして見せしむべし」と続きます。人知の遠く及ばない程のスケールと不可思議な本願力をしっかりと憶想していく為には、今、世間を見ている「目」ではなく「心の眼」をもつて見なくてはなりません。

この研修会を通して「心眼」を少しでも研ぎ澄ます機会になれば良いと思います。私達はそれぞれ大学や道場を経て僧階を取得し今日に至っておりますが、「知っているつもり」や「やったはず」或いは忙しさを理由に自分自身を誤魔化している部分があるかもしれません。既に習ったような、他愛もないと思うようなテーマでも、心の眼を研ぎ澄ませて真剣に

取り組めば新たな発見があるはずです。

今大会は一日開催にて三人の講師をお迎えし、それぞれ八十分の講義を予定しております。何れも在家の方が素朴な疑問として思うようなテーマに対して、在家の方に話していただくように講師の先生にご依頼する予定です。

既にご自分の回答をお持ちの方もあるかもしれませんが、講師の先生と同じ落し所に至れば自信に繋がるでしょうし、新たな発見も必ずある筈です。私たちが避けては通れない「布教」という分野において、何か役立つものが見つかるような研修会となれば幸いです。

一人でも多くの参加者を目指し、二年前の発足以来委員会メンバー一同、心のこもった大会にしたいと一生懸命頑張っております。関ブロック浄土の仲間喜んでいただけますよう、浄土宗青年会一丸となつて大会を盛り上げて頂きたく、ご協力のほど何とぞ宜しくお願い申し上げます。

合掌

編集後記

第21期編集委員会メンバー

石川 仁恵	港南組	葉王寺	皆川 演亮	小田原組	城前寺
香川 陽祐	高座組	増全寺	水谷 貫雄	京浜組	相應寺
香川 隆順	港南組	阿弥陀寺	坂本 慎成	高座組	生往寺
鳥居 淳生	鎌倉組	安養院			

以上のメンバーで2年間頑張っております。よろしくお祈りいたします!!



活動テーマ「矜持～未来創造～」

ホームページ、リニューアルしました。

- スマートフォンに対応しました。
- カレンダー（予定表）を追加しました。



「浄土宗神奈川教区青年会ホームページ」
<http://www.jodo-kks.com/>